

2 自転車利用環境形成に向けた課題

1. 住みよいまちの促進の観点からの課題

1) 通勤・通学利用の自転車が安全に利用できる自転車通行環境の確保

- 本市の自転車利用は、高校生の通学での利用が多い中、依然、安全に自転車が通行できる自転車通行空間は不足していることから、通行空間を確保する必要がある。
- 自転車の利用促進を図っていくにあたり、自転車によるエコ通勤の推進など、通勤利用の自転車が多くなると、とりわけ朝の交通が集中する時間帯で安全な自転車通行空間を確保する必要がある。

→ 自転車の通行空間の整備により対応可能

2) 自転車を安全に使うためのルール、マナー遵守への取組の必要性

- 本県では、高校生の自転車事故がもっとも多く、危険行為を行う割合が全体の4割と多くなっていることから、自転車通行環境の確保と合わせて、自転車を安全に使うためのルール、マナー遵守への取組の強化を図る必要がある。

→ 交通ルールやマナー遵守に対する指導や意識啓発として、さわやかマナーアップ教室の更なる充実を図り実施していく

2. 地域振興の促進の観点からの課題

1) 東海道を含む中心市街地への来訪者が安全に利用できる通行環境の確保

- 東海道を含む中心市街地では、依然、自転車で安全に通行できる環境が不足していることから、自転車が安全に通行できる通行環境を確保していく必要がある。

→ 東海道を含む中心市街地へのアクセスルートや自転車通行空間の整備により対応可能

2) 駐輪場だけでなく、道路上などに気軽に駐輪できる環境の確保

- 市内の商店街などに自転車で訪れ買物する際、気軽に駐輪できる環境が十分とは言えない。自転車利用者にとって、短時間の駐輪のために、店などから離れた駐輪場まで止めに行くのは、自転車の利便性を下げることになり、駐輪場が整備されている施設へ顧客の流出を招くこととなる。自転車の利便性を高めるためには、道路上などに気軽に駐輪できる環境を確保する必要がある。

→ 活性化連絡会や商店街連合会と協調し、駐輪施設を促進していく

3) 買物時の自転車利用のメリットの創出

- 自動車で買物に商業施設を訪れると、駐車場を利用した場合に、駐車券のサービスを受けられることがあるように、自転車で中心市街地へ訪れる回数を増やすために、自転車を利用した買い物をすると、割引が受けれたり、ポイントが付与されたりするサービス等の、インセンティブを確保することで、自転車利用での買物時にメリットを創出する必要がある。

→活性化連絡会や商店街連合会と連携を図り、自転車の使いやすい環境整備を普及していく

3. 観光振興の促進の観点からの課題

1) 観光客等が安全かつ快適に利用できるサイクリング環境の確保

- 市内の観光資源を安全に周ることができるサイクリングルートが整備されていないことから、自転車通行空間の確保にあたっては、観光資源を巡ることができるルートを創出する必要がある。

→観光資源をつなぐ自転車の通行空間の整備により対応可能

2) レンタサイクルを様々な場所で利用できる環境の確保

- 自転車をレンタルし、周遊観光ができる環境が十分とはいえない。藤枝駅北口等のレンタサイクルおよび、蓮華寺池公園、岡部観光案内所等で展開するシェアサイクルに加え、市内の各観光施設をつなぐレンタサイクル等の利用環境を確保する必要がある。

→通行空間の整備とは別に、IoTを活用した次世代レンタサイクルシステムの導入を更に推進していく

3) 快適な移動を支援する環境の確保

- 自転車による観光周遊を促進するためには、通行空間の整備だけでなく、休憩場所、トイレ、案内サイン、サイクルスタンド等の快適な移動を支援する環境を整える必要がある。これらの環境は、上記のレンタサイクル等の貸出場所の設置などと合わせた整備が必要である。

→通行空間の整備とは別に、IoTの活用を踏まえて検討していく

4. 健康の増進の観点からの課題

1) 市民が安全に利用できる通行環境の確保

- 市民が自転車を利用したくなる、安全かつ快適な環境を整備し、気軽に自転車を利用することで、健康づくりにも貢献できる、通行環境を確保する必要がある。

→自転車の通行空間の整備により対応可能

2) 自転車利用の健康面での有用性の明確化

- 健康増進のための自転車利用が、どの程度寄与することができるのかを明確にして、情報提供を行うことで、自転車利用の促進を図っていく必要がある。
 - ➔ 通行空間の整備とは別に、自転車の利用を誘引するよう、スポーツ&健康フェスタなどで自転車の利用を推進していく

5. 環境保全の促進の観点からの課題

1) 市民が安全に利用できる通行環境の確保

- 環境保全のために、市民が自転車を使用しなくなる安全かつ快適な自転車通行環境を確保することで、自動車利用から自転車利用への転換により、環境負担の低減を図っていく必要がある。
 - ➔ 自転車の通行空間の整備により対応可能

2) バス、鉄道等の公共交通機関と連携利用できる環境の確保

- 自動車から自転車利用への転換には、交通手段として自動車から自転車に転換する他に、バス、鉄道等の公共交通機関と自転車を組み合わせることで、自動車からの転換を図ることができるサイクル&ライド実施には、その環境を確保する必要がある。
 - ➔ 通行空間の整備とは別に、自転車の使いやすい環境を交通事業者と連携を図り、環境整備を促進していく